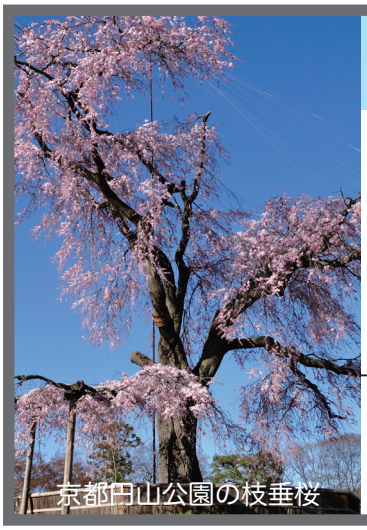
京都円山公園の枝垂桜

東京清掃労働組合退職者会機関紙

清友

No. 32
2012年4月

東京清掃労働組合退職者会
〒102-0072　千代田区飯田橋3－9－3　SKプラザ4F
TEL 03（3237）9995　　FAX 03（3237）4541

日比谷メーデーに参加しましょう

4月1日に第6回幹事会を開催し、①定期総会議案、②メーデーの取組みを確認しました。

●第5回定期総会

ご案内のように4月19日開催です。出欠通知を出していない方は至急お願いします。定期総会議案のうち活動方針案と予算案は2面に掲載しましたので、検討してください。

●メーデーの取組み

今年も統一メーデーは実現せず、例年同様、4月28日に中央メーデー、5月1日に日比谷メーデーが開催されます。

4月28日の中央メーデーは、昨年、東日本大震災の状況等を踏まえて東京地公労の事前集会・デモを中止しましたが、今年は復活します。幹事中心に代表参加で対応します。

5月1日の日比谷メーデーは今年も退職者会の隊列を組む予定です。ただし、都労連はメーデー職免を廃止されましたので、東水労、都高教、都庁関係の労組は厳しい状況にあり、メーデー職免が残っている区職労や東京清掃の参加者増が望まれています。東京清掃も作業日ですから、退職者会の出番だと思っています。総会の日に参加者を最終確認します。是非ふるって参加ください。

第5回定期総会

〈日　時〉　4月19日（木）
　　午前10時開会
〈場　所〉　SKホール
　　（清掃会館地下）
〈議　案〉　①活動方針（案）
　　②会計予算（案）
　　③旅費改正（案）

懇　親　会

〈日　時〉　4月19日（木）
　　12時30分
　　（総会終了後）
〈場　所〉　SKホール

※出欠の連絡をお早めに。

お花見ウォーキングは、4月5日（木）です。参加する方は、午前10時に京成本線国府台駅前へ集合してください。

東京清掃退職者会第５回総会議案

2012 年度活動方針（案）

（はじめに）

昨年は、激動の年でした。東日本大震災・大津波で未曾有の被害となり、福島第一原子力発電所の事故は、私たちの生活環境を一変させ、放射能と向きあう生活を余儀なくさせられました。いまだ生活基盤を失うなどにより苦労されている多くの被災者がいます。一日も早い復旧、復興が望まれます。

そして、原発依存を見直し、エネルギー政策を抜本的に変えていくことが強く求められています。

さて、退職者会も第５回の総会をむかえました。この一年間の主な活動は、「２泊３日の旅行会」をはじめ、夏季・秋季２回の学習会、新春の集い、春のウォーキングなど、会員同志の親睦と交流を進めながら、現役世代の支援や脱原発集会など社会的な運動を取組み、その内容を機関紙「清友」に掲載し、東京清掃本部を通じて各支部へ届け、読んでもらうことで退職者会の活動を理解していただくとともに、「現・退」一致の活動を継続して行う中で、会員の拡大を目指してきました。

また、退職会各単会および上部団体との交流、学習会、集会等へ積極的に参加しました。

今年は、昨年 11 月に実施した「旅行と交流行事に関するアンケート」結果の分析を基に、会員相互の親睦を図るため、さまざま交流の場をつくっていきたいと考えています。

私たち高齢者をとりまく情勢は依然として厳しく、年金制度、高齢者医療制度、介護保険制度を改悪し社会保障を後退させようとする動きが再燃しつつあります。民主党政権に変わり「生活第一」への施策遂行を期待しましたが、高齢者が安心して暮らせる状況には至っておらず、「社会保障と税の一体改革」の内容も進め方も国民の期待に応えたとはいいがたいものがあります。特に、年金の特例水準減額は、「物価が上昇したら相殺する」とした約束を反故にするものです。

「年寄りいじめ」をさせないためにも、退職者会の会員拡大を図り、退職者の代表を政府の各種審議会に入れることなどにより、高齢者の声を施策へ確実に反映させる必要があります。

また、現役世代との連携の強化と、全日制市民として社会的運動の推進も退職者会の重要な役割であることを自覚した取組みを進めることが必要です。

以上の視点に基づく取組みを進め、会員 100 名をめざしていきます。

（活動計画）

１．基本組織の取り組みで対応できる行動などに参加する。

２．状況に応じて「問題別学習集会」の開催。

３．会員（家族など含む）相互の旅行会の開催。

４．文化活動

（１）将棋、囲碁などの大会の本部主催への参加。

（２）レクリーション（見学、視察など）

（３）スポーツ親善（見学、視察など）

（４）園芸、植木、盆栽（見学、視察など）

（５）ウォーキング（ハイキング、ピクニック）

（その他）

１．財政問題

東京清掃労組の交付金及び会員年会費をあてる。

２．組織拡大

会員の新加入を促進します。

３．東京清掃労組、自治退都本部、都庁退、他支部退との交流に参加。

４．救済活動の取り組み

火災保険（全労災）、自動車共済（自治労共済）、安心総合保険（自治退）

（おわりに）

第５回定期総会で活動方針を決定していただき、新たな気持ちで活動を役員一同が一致して進めていきます。

長寿の可能性を視野にいれ生活設計を立て、元気で健全な老後を送りたいと思います。

東京清掃退職者会2012年度会計予算（案）

自）2012年4月01日
至）2013年3月31日

区分	会計科目	11決算額	12予算額	説明
収入	繰越金	568,559	581,411	2011年度会計繰越金
	会費	132,000	140,000	会員一人@2,000円×70人
	交付金	600,000	600,000	東京清掃本部交付金
	雑収入	54,611	28,589	総会祝い金、安心総合共済組織宣伝費助成金、預金利息、その他（端数調整）
	合計	1,355,170	1,350,000	
支出	総会費	48,676	50,000	議案書作成、案内状送付、来賓車代、その他諸費
	会議費	129,600	180,000	幹事会・三役会議・その他清掃退職者会会議の旅費及び諸費
	行動費	152,720	250,000	メーデー・高齢者集会・動員・事務局その他の行動の旅費及び諸費
	参加費	95,400	150,000	上部団体各種会議・学習交流会等参加費及び旅費
	教宣費	56,520	60,000	学習会費、機関紙発行費、取材活動費、その他諸費
	交流費	115,821	250,000	清友会旅行、新春の集い、ウォーキング、懇親会経費その他諸費
	渉外費	56,400	100,000	上部団体交際費、各単会交際費、その他諸費
	事務費	52,622	100,000	通信費、事務用品、その他諸費
	分担金	66,000	80,000	自治退都本部（20,000円＋600円×70人）、都庁退10,000円、会員増加分加味
	弔意費	0	30,000	会員死亡弔慰金、葬儀参列経費、電報代
	予備費	0	100,000	上記科目に属さない経費
	合計	773,759	1,350,000	

地公退統一要求に政府が回答

昨年8月提出した「年金・介護・税・エネルギー政策に関する地公退統一要求」に対し、1月31日に福田総務大臣政務官から回答がありました。

■年　金

(1)政府・与党がまとめた「社会保障・税一体改革素案」で、「所得比例年金」（社会保険方式）と「最低保障年金」（税財源）を組合せた新年金制度を示した。国民的議論が必要と考えている。

(2)新制度に先立ち、平成19年法案をベースに被用者年金を一元化するが、その後も共済組合は事務組織として活用する。

(3)職域部分の廃止は、人事院の調査等を踏まえて、検討する。

(4)恩給期間に係る追加費用の減額は、配慮措置を講じる。

(5)マクロ経済スライドは、将来の現役世代の過重な負担を回避するという観点の仕組み。現在の年金額の水準は、特例法により本来の年金額より2.5％高く、特例水準の解消が前提となるマクロ経済スライドは適用されていない。世代間公平の観点から、特例水準の年金額を計画的に本来の水準に引き下げる。デフレ経済下のマクロ経済スライド適用は、この引き下げ状況も踏まえながら、引き続きその適否を検討する。

(6)社会保障・税に関わる番号制度は、社会保障給付の効率性・透明性・公平性を高めるため、導入を検討している。個人情報の保護等に配慮する。

(7)国連の責任投資原則（ＰＲＩ）の趣旨を踏まえ、地方公務員共済組合の社会的責任投資の活用を進めている。

(8)被用者年金一元化に併せ、公務部門も含む短時間労働者の厚生年金への適用拡大を検討している。

■高齢者雇用

(1)人事院から「定年を段階的に65歳に引き上げる」意見が出された。民間の状況等をも踏まえつつ、検討している。

■介護基盤整備

(1)介護基盤は、平成21～23年度の3年間で16万床を目標に整備を行う。平成24年度も引き続き整備を行う。

(2)東日本大震災による被災地の介護基盤復旧は、平成23年度に引き続き、適切な地方財政措置を講じる。

■税　制

(1)市町村の徴収効率化と公的年金受給者の便宜を図るため、個人住民税の公的年金からの特別徴収が導入された。特別徴収の対象は、65歳以上の2割強で、年金収入が200万円程度の標準的世帯は、基本的に税負担は生じない。

■原発見直し

(1)現在、経済産業省等でエネルギー政策の見直しを進めている。地公退の要請内容は、政府部内で情報の共有を図る。

訃報　鈴木清吉さん逝去

鈴木清吉さんがお亡くなりになったと、3月14日にご遺族から連絡がありました。

1月21日の「新春の集い」ではあんなに元気だったのに。終了間際に手を挙げて発言し、会員拡大を熱心に説いたのは、何か予感があったのでしょうか。

享年79歳。ご冥福をお祈りします。

1月21日「新春の集い」にて

退職者会活動日誌

＊2月16日の第5回幹事会以降3月27日の第6回幹事会まで

▼2月29日、東京清掃退職者送別会がＳＫホールで開催され、戸張副会長、庄司事務局長、戸枝会計、岩渕会計監査が参加。会の模様は別記記事のとおりでした。

▼3月6日、会員拡大へ向けた取り組みの一環として、東京清掃支部代表者会議の場で今年度退職者の加入促進を要請しました。参加者は庄司事務局長、戸枝会計。

▼3月11日に郡山市で開かれた「原発いらない3・11福島県民大集会」に東京清掃のバスで戸枝会計、山崎精さん、若井さんが参加。

▼3月13日、都庁退組織強化単会事務局長会議が自治労都庁職会議室（都庁）で開催され、庄司事務局長が参加。会員拡大へ向けた取組みを話し合いました。

▼3月27日、第10回三役会を開催し、幹事会提案議案等を議論。

▼同日、第6回幹事会。内容は別記のとおり。幹事9名参加。

▼事務局会議・事務業務　5回。主な課題は、当面の行動企画、会員拡大対策、定期総会準備、定期総会案内、機関紙等発送の取組みでした。

▼この他、自治退都本部常任行動として、庄司事務局長が都本部常任幹事会、脱原発集会等に参加しています。

東京清掃主催 退職者歓送会

東京清掃労働組合

「組合がなければ今日を迎えられなかった」と参加者謝辞

東京清掃主催の退職者送別会が2月29日、SKホールで開催されました。

前日から雪が降るという生憎の天候により当日キャンセルもあり、参加者は少数でしたが、支部の引率者、中執を含め約50名で催されました。

坂本組織部長の司会で始まり、吉田委員長がねぎらいの詞を述べ、庄司退職者会事務局長が「第二の人生を楽しむため退職者会へ加入を」と呼びかけ、戸枝退職者会会計より自治退が取り扱う「安心総合共済」の説明をしました。

山崎副委員長の音頭による乾杯に続き懇親会に入り、舌も滑らかになったところで参加した退職者全員から想い出を話していただきました。

「組合がなければ今日を迎えられなかった」という退職者の謝辞に対し、現役世代である中執から「今日の東京清掃があるのは先輩方の様々な闘いの成果」と返す言葉があり、自治退が掲げる「現・退一致」の理念が体現されました。

今年の退職者送別会も参加人数は少なかったものの、実りある会になりました。

脱原発へ一千万人のパワーを結集しよう

東日本大震災と福島原発事故から一周年の3月11日、郡山市開成山野球場で「原発いらない福島県民大集会」が開かれ、福島県内はもちろん全国から1万6千人の市民・労働者が結集しました。

東京清掃もバス2台で参加。地域の反戦平和運動・市民運動などで参加した方も含めると東京清掃の参加者は100名を超えたようです。退職者会も東京清掃の呼びかけに応じて戸枝会計、山崎精さん、若井さんの3名が参加し、他団体の枠でも複数の方が参加していました。

集会は「福島の犠牲を無駄にしないため、原発はいらないの声を大きく挙げる」ことを確認しました。

なお、道々セシウムの数値を測定。バス出発地の区政会館前（飯田橋・目白通り沿い）では最大0・078μSv、集会場の開成山野球場内野席は0・386μSv、除染していない外野席は3・197μSvでした。郡山市には福島原発避難区域内から多くの方が避難していますが、放射線量が高い現実を再認識しました。

また、3月24日に日比谷公園で「さようなら原発」集会が開かれ、脱原発署名は550万筆に達したと報告されました。清掃退職者会の署名数は、32名376筆。自治退都本部内では最高率の集約状況です。ご協力ありがとうございます。

会場の開成山野球場を埋め尽くした「原発いらない福島県民大集会」

「福島県民大集会」東京清掃のデモ隊列